

【総合考察】

本年度に実施した教職員・保護者・児童の各アンケート結果を総合的に見ると、本校の教育活動が三者に共通して概ね肯定的に受け止められていることが分かる。教職員アンケートでは、少人数であることを生かした教育活動や、教職員が意欲的に取り組める働きやすい職場環境について前向きな評価が多く、「働きやすい学校、働きたい学校」という本校の目標に近づいていることがうかがえる。

児童アンケートにおいても、「学校に来るのが楽しい」「行事が楽しい」「先生に質問や相談がしやすい」といった項目で肯定的な回答が多く、自由記述からは学習や行事に達成感をもって取り組んでいる様子が読み取れる。これらは、教職員の丁寧な指導や温かな関わりが、児童の安心感や学校生活への前向きな姿勢につながっていることを示している。

さらに、保護者アンケートでは、「いじめのない学校づくり」「児童の健康や安全への配慮」「学校行事の充実」などに対する高い評価が継続しており、保護者が安心して子どもを通わせることができる学校として信頼を寄せていることがうかがえる。児童が「学校を楽しみにしている」「家庭で学校の話をよくしている」という結果は、児童アンケートの内容とも一致しており、学校での取組が家庭にも伝わっていることが分かる。

一方で、ICTを活用した授業や家庭学習の在り方、自分の考えを主体的に表現する力の育成については、三者のアンケートからも今後の工夫や改善の必要性が示されている。特に、保護者からはICTと対面での学び、体験的な学習とのバランスを重視する意見が寄せられており、教職員・児童の実態を踏まえた取組が求められる。

今後は、教職員が働きやすい環境を基盤としながら、少人数・複式学級のよさを最大限に生かした学習方法の工夫や、児童一人一人に寄り添った支援を一層充実させていく必要がある。教職員・保護者・児童の声を学校運営に生かし、三者が同じ方向を向いて協働できる学校づくりを進めていきたい。